

クラスだより

2023・12・28
富岡保育園
年中・年長

2023 年も、もうすぐ終わろうとしています。4 月の頃からすると、一人ひとりの子どもたちが、この一年で身も心も大きく成長し、頼もしささえ感じられます。自分の思いが通らず、友だちと揉めることはありますが、それも子どもたちにとっては貴重な経験であり、友だちと遊ぶことの楽しさを存分に味わっていることが、色々な遊びを通して感じられる今日この頃です。

「あと 3 ヶ月すると年長さんは 1 年生、年中さんは年長さんだよ」と言う「えーやったー！！」とどの子も目を輝かせて喜んでいました。先日、食育ノートの感想を読ませてもらいました。11 月は「苦手なものも食べましょう」でしたが、「基本なんでも食べます」「嫌いな食べ物はありません」などの感想が次々と出てくるので「すごいなー」と思いました。保育園でもよく食べる子ども達です。今年もいつも手と心をかけて、おいしい給食を作って下さる給食の先生方にも感謝の気持ちでいっぱいです。

お正月があげると、いよいよ発表会です。今年は、4 年ぶりにオペラ「ないたあかおに」に挑戦します。この「ないたあかおに」は、プロの作曲家井上勝義先生が子どもたちの為に、分かりやすく、且つ楽しいものに編曲されて仕上がったものです。所要時間 20 分の大曲です。今のところ、歌はほぼマスターし、年長さんのリードで、年中さんも楽しそうに声高らかに歌っています。遊んでいてもつい口ずさんでしまうほど、子どもたちを虜にしてしまう楽しい曲のようです。今週、子どもたち一人ひとりになりたい役を聞き、希望を取りました。まだ決定ではありませんが、できるだけ子どもたちの意に添うよう進めていきたいと思います。セリフを言うだけなら言葉を覚えるだけですが、オペラなので、全て歌って表現するとなると難しく、また見ている人にわかるように演じるということは容易な事ではありません。一人ひとりの子どもが楽しんで発表できるよう、保育士が心のアンテナを張りながら取り組んでいきたいです。発表会があるから何かをするのではなく、これを通して子どもたちに大切な経験をして欲しくて、色々なことに取り組んでいるところです。

進級・卒園まで、残り 3 ヶ月となりました。子どもたち一人ひとりが安心して園生活を送れているかを確認しながら、心理的な安心感、つまり「保護されている」「見守られている」「愛されている」「自分の思いが出せる」「楽しさや喜びがある」「認められる」という実感が味わえるようかかわっていききたいと思います。

今年一年、大変お世話になりました。ご協力・ご支援ありがとうございました。来年もどうぞよろしくお願い致します。良いお年をお迎えください。

2023年のベストショット





子どもたちに心の栄養を



今、子どもたちのブームは、トランプ（１・９・３、ババ抜き）、すごろく、オセロ、かるた、ハリガリ、どうぶつ将棋などで、友だちを誘っては、夢中になって遊んでいます。又、年長さんだけでなく年中さんもお友だちにお手紙を書いたり、少しずつ文字や数字への興味が出てきました。書くとなるとまだ難しいようですが、年長になってからあわてて字の練習をするのではなく、今からしりとりや、頭音集め、線遊びなど遊びながら興味を引き出していくと、後で苦労しないようです。

お正月、遠くへお出かけされるよりも、家族みんなでトランプやかるた、すごろく、凧揚げ、コマ回しなどをしたり、親子でふれあって遊ぶ（保育参観で遊んだような）ことのほうが子どもたちにとっては、一番幸せなことです。何よりも、お父さん、お母さんが、自分のために時間を作って付き合ってくれたということが、子どもにとって心のエネルギーとなり、これからの生きていく力となるのです。

もう一つ、絵本の読み聞かせどんなでしょうか？

先日の育児講演会、上田紀人先生の「心を育む絵本の力」のお話を思い出してみましょう。
「絵本は、子どもたちの幼い頃の「幸せな記憶」として残ります。お母さんのひざの上で聞くあたたかい声は、子どもたちに安らぎと安心感をもたらし愛情をたっぷりと感じ、情緒を安心させる（子どもの安心できる居場所と時間）これこそが本当の自立につながる」とおっしゃいました。

お正月休みお忙しいと思いますが、どうか子どもたちに心の栄養を与えてあげてください。

「子どもの心のコーチング」菅原裕子著（PHP 文庫）

子どもを良い子に育てたい・・・そう考えるあまり、声をかけ、世話をやきすぎて、依存心の強い自立できない子どもが増えているといいます。しかし、子どもの将来を思うなら、自分で考える力、周りの人とうまくやっていける本物の「生きる力」を身につけさせるのが親の務めです。（内容紹介より）

- ① 愛だけが自己肯定感を育てる
- ② 「甘えを受け入れる」と「甘やかす」は違う
- ③ 愛を教える母性と責任を教える父性
- ④ 朝起こさないことから始めよう
- ⑤ 親は叱っているのではなく、自分の都合で怒っている
- ⑥ 人の役に立つ喜びこそ副作用のないやる気の種
～「えらいね」とほめるより「ありがとう」がいい！
- ⑦ 共感したとき、子どもは自ら動きたくなる
- ⑧ どう生活するか、まず親が「枠組み」をはっきり示す
- ⑨ ダメな事を言えば言うほどダメになる
- ⑩ 子どもを自己実現の道具にしないで
- ⑪ 子どもは完ぺきな親を求めてはいない

